

令和2年度 第2回 社会教育委員の会議 摘録

- 【日 時】 令和2年11月25日（水）午後3時00分～5時00分
- 【場 所】 大牟田市 生涯学習支援センター 1階 多目的室
- 【出席委員】 堺(裕)委員、牧菌委員、堺(婦)委員、松尾委員、江崎(美)委員、後藤委員、黒田委員、須寄委員、柿川委員
- 【欠席委員】 堤委員、金子委員、野田委員
- 【行政関係者】 中島市民協働部長、富安市民協働部調整監、徳川地域コミュニティ推進課長、原生涯学習課長、楠生涯学習課青少年担当課長、平田人権・同和教育課長、徳永スポーツ推進室長、中村世界遺産・文化財室主査、中島生涯学習課青少年教育担当主査、内野同課青少年教育担当職員、浦川地域コミュニティ推進課社会教育主事、岡同課社会教育担当職員、西山同課社会教育担当職員

◆あいさつ

中島市民協働部長

◆議 題

1 子育て情報誌「おおむたっ子」に掲載する社会教育委員のメッセージについて

当日配布資料『「おおむたっ子」第40号 社会教育委員の子育て応援メッセージテーマ～子育てを1人で悩まないで～アンケート回答【まとめ】』、『「おおむたっ子」掲載ページ（過去3年分）』を基に楠生涯学習課青少年担当課長、中島生涯学習課青少年教育担当主査より説明。

議長	「家族、友達、地域の方などまわりのだれかと話してみましよう」とあるが、例えばPTAの立場から伝えたいことがあるか。
委員	現在、学校の授業参観・運動会などが実施されず、保護者同士が触れ合う機会が減っている。今までは、そのような機会に保護者間で子育ての悩みを相談できていたと思う。PTA会長という立場の自分自身も他の保護者と話をする機会が減っているため、子育ての悩みを抱えている保護者は多いのではないかと。SNS等で繋がっている保護者も多いと思うが、それだけでは言葉のニュアンスが違ったりと相談が難しくなっている。そこで、せっかくコロナ渦で家にいるので、夫婦・家族で子育てについて話す時間を増やしていくことができれば良いと思っている。校区まちづくり協議会の会議に出席しているが、まち協のイベント自体が行うことができないので、地域の方・子育ての先輩の方と話をする機会も減っている。何らかの形で、子育て世代が悩みを相談できるよう、地域の人たちと交流する機会が必要なのではないかと思った。
議長	地域の人同士の交流が減っているということだが、地域の立場から何かご意見はあるか。
委員	地域の児童委員や民生委員は相談してほしいと待っている。相談したいと思っても、子育て等に忙しく、なかなか広報を見ることができない。

	<p>子どもが生まれたとき、赤ちゃん訪問を実施されているが、その際に児童委員や民生委員の連絡先を教えてあげると良いと思う。何か困ったときに気軽に連絡できるように、電話番号やメールアドレスを教えた方がいい。また、経験豊かな地域の方もたくさんいらっしゃる。行政に相談したくても、自分だけが悩んでいるのではないかと躊躇してしまう方もいると思うので、地域の方へ気軽に相談できるような工夫をすべき。児童委員や民生委員、地域の方も声を気軽に相談してほしいと思っている。</p>
議長	<p>相談先をきちんと周知しておくということが仕掛けの1つになるといこと。地域の方との実情が乏しくなっているという現状だが、他の実情を教えてください。</p>
	<p>手鎌地区公民館で「子育てふれあい広場」に携わっているが、新型コロナウイルス感染症の影響でしばらく休止していた。就園前の子どもをもつ保護者は家にこもってしまうと誰にも会わず、喋る事ができなくなってしまう。そのような環境を少しでも解消したく、11月から再開した。大牟田市では他の市町村に比べると子育てに関する取り組みを色々実施している。「はぐはぐ」や「子育て情報誌おおむたっ子」も大牟田独自のものである。しかし、広報おおむたには子育て世代向けの情報を掲載しているが、子育て世代の保護者はゆっくりと目を通すことができない。それに比べて、「おおむたっ子」は写真もついて、詳しく、読みやすく、子育て世代に向けて手にとりやすい形で届けている。今回、社会教育委員のページでは、子育ての悩みは成長過程に応じて発育やどのような習い事をさせればいいのかなど様々な悩みがあるため、それぞれの専門分野で活動されている社会教育委員の方たちを紹介して、相談してくださいと伝えるのもよいのではないか。</p>
委員	<p>産後病院を退院されるときに、つどいの広場の情報などを紹介すると良いのではないか。</p>
委員	<p>つどいの広場の情報などは出生届を出すときに渡されていると思う。</p>
議長	<p>もともと子育てに関する情報は発信されていたが、コロナ禍において、情報が遮断されてしまったようになってきているような気がする。今の時期に改めて情報を再発信すればよいのではないか。</p>
委員	<p>子ども達が成長して世代が変わっているため、再発信でも構わないと思う。子供が成長するにつれて子育ての悩みは変わってくるため、今回「1人で悩まないで」というテーマなので社会教育委員がどういった人になっているのかを紹介してもいいのではないか。</p>
議長	<p>それでは再度、情報発信を行う。また、仕掛け作りを「アンケート回答のまとめ」の2つ目に記載されている「行事に参加してみましよう」の中で、公民館でこういったことをしてみてもいいのがあるか。</p>
委員	<p>今回テーマをいただき、周りに相談して考えたが、普段の主な活動はサークルであるため子育てが身近なものではなく、自分が子育てをしていた</p>

	<p>時も家族に任せていたところもあったので、正直どのようなメッセージを伝えればいいかわからなかった。</p>
委員	<p>地域では、高齢者の一人世帯を小学生が訪問する取組みを実施しているが、今年度はコロナのためにできていない。また、地区公民館でアンビシャス広場を再開し、小学生の体験活動は少しずつ始まってきた。最近では祖父母と一緒に暮らす人が減ってきたので、自分の子どもが高齢者と触れ合うことができるのを喜ばれる保護者（子育て世代）もいらっしやる。こういった活動は積み上げていくことが育成につながると思って活動している。</p>
委員	<p>子育て中の人は病院に行くことが多いため、子育て情報の案内のチラシを持ち運べるようなポケットサイズにして、病院で配布してもよいのではないか。</p>
委員	<p>テーマ「1人で悩まないで」の応援メッセージとして、とにかく「親子で外にでてみようよ！」ということ伝えたい。自然な中にいけば、親子での会話ははずみ、親子の中で笑いも生まれる。子どもたちは外に出るのが大好きで、目がキラキラしている。親子で一緒に自然体験を楽しんでほしい。この思いから、コロナ禍の今でも、子どもたちとの外での自然体験を続けている。</p>
議長	<p>文化連合の立場からいかがか。</p>
委員	<p>文化の立場からというより個人的な事例になるが、近所に越して間もない子育て中のお母さんが寂しそうな顔をされていてとても気になった。いつもの散歩時間にまずはあいさつ声掛けからはじめて、言葉を交わせるようになってからえるで実施されている『つどいの広場』を紹介した。その後、向こうから『つどいの広場』へ行った。とてもよかった。」との言葉をもらえてとてもうれしかった。まずは、自分からの声掛けを心掛けている。この積み重ねが大切なのではないか。</p>
議長	<p>スポーツではどうか。</p>
委員	<p>スポーツで仕掛けはあると思うが、子どもの成長過程、年齢、家族構成によって違ってくるので、今回のテーマでは答えることができなかった。弱い立場の保護者に対して、行政から何が出来るかターゲットをしぼって発信すると良いと思う。スポーツをする子どもの保護者が集うと子育てのコミュニケーションが広がったり、スポーツ教室での子どもの成長が親の成長につながることもあると思う。</p>
議長	<p>そのような仕掛け・効果を情報発信していき、行政からのお知らせを目立つように、手に取りたくなるものを効果的に配布する工夫が必要ということか。</p>
委員	<p>子育ては何歳までというのはないのではなく、その年齢における地域での大人の関わりが大切、赤ちゃんから高齢者までかわることが大切。行政からすばらしいチラシや案内ができればよい。</p>

議長	どこでどういうふうに行政からのチラシを配布するかということも大切ということか。
委員	子育てを何歳までとせず、読者のターゲットを広い範囲でとらえてもよいのではないか。
議長	子育ての範囲を広く考えてもよいかもしれない。
委員	子どもが社会で一人前になるまでは子育てである、という考え方もよいのではないか。ライン、SNS を利用した発信が必要だと思う。情報の入り具合、伝わり方が広がってくると思う。

2 地区公民館の在り方の検討について

当日配布資料『地区公民館についてのアンケート調査（中間報告）』、『地区公民館の在り方の検討と今後の方向性について [検討の進め方のイメージ]』、『地区公民館の在り方の検討について「大牟田市地区公民館配置計画」（7地区公民館構想）の総括について』に基づき、徳川地域コミュニティ推進課長、浦川地域コミュニティ推進課社会教育主事が説明。以下の意見・質問が出た。

委員	10～20年後に校区がどのようになっていくのか、何を基礎に公民館の在り方を検討していくのかが大事ではないかという話になった。分科会では、何が基礎となるのかを模索している状態である。
議長	幅広く捉えながらも、長期的な視点（人口、学校の再編）でアプローチしているということか。
委員	少子化に伴い中学校区の再編があると思うが、今後、校区数はどのようになるのか。
行政関係者	最終的には、再編計画の中では中学校は6校区になる。小学校区については、中学校区の再編が終わった後に議論していく考えが示されている。
委員	中学校の再編が地区公民館の在り方の1つの物差しになると思う。また、大正校区に住んでいるが、中央地区公民館に行くには線路を超えて行かなければならず、ほとんど利用したことがない。防災拠点として地区公民館を考えると高齢者は利用できるのかと疑問である。地区公民館に行くよりも小学校、中学校へ避難していただいた方が安全ではないか。防災拠点としての利用も併せて検討してほしい。一方で、現在まちづくり協議会の運営委員をしているが、中央地区公民館から地域おこしの支援をしてもらっており、とてもありがたく感じている。
議長	色んな視点からバランスをとって、検討してほしいということか。現状の地区公民館の役割と防災拠点としての役割を担えるように対象校区を考えていくと、全ての人がアクセスしやすい地区公民館になるように検討を進めていかなければならないという課題があるということになる。
委員	令和2年7月豪雨でみなと小学校、三川地区公民館が避難所になっていたが浸水し孤立したため、船津中学校と中央小学校への避難を案内された。中央小学校を見に行ったが、避難者は体育館の窓のサッシの側に座っていて、強風が吹いてサッシが飛ばされてしまったら危険だと感じた。また、

	慌てて避難してくる人もいるためマスクの備蓄が必要だと思った。
委員	配布資料『地区公民館の在り方の検討について「大牟田市地区公民館配置計画」(7地区公民館構想)の総括について』の5ページに「地区公民館の目的外利用は増加」と記載されているが、市が目的外と定めている目的が利用者の目的へとようになってきているのだと思う。社会教育施設から身近な公共施設へと変化していく事がポイントになると思う。

◆報 告

成人式について

配布資料「第73回 成人式実施要項」を基に楠生涯学習課青少年担当課長より説明。

令和2年度筑後地区市町村社会教育委員研修会について

事務局より説明。筑後地区市町村社会教育委員研修会については、書面で開催し、冊子と基調講演と人権研修を収録したDVDを筑後地区の各市町、大牟田市の社会教育委員へ配布予定（1月上旬の予定）。11月8日に西九州大学教授 上野 景三氏の基調講演を収録、また南筑後教育事務所で人権研修の収録を依頼中である。冊子については大牟田市の事例等を掲載し作成中である。

◆そ の 他

令和2年度南筑後地区社会教育委員交流会について

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

⇒次回会議 令和3年2月3日（水）15時00～予定